慶應義塾大学学術情報リポジトリ
Keio Associated Repository of Academic resouces

Title	経済表解註
Sub Title	
Author	渡辺, 建
Publisher	慶應義塾理財学会
Publication year	1944
Jtitle	三田学会雑誌 (Keio journal of economics). Vol.38, No.3・4 (1944. 4) ,p.251(87)- 292(129)
JaLC DOI	10.14991/001.19440401-0087
Abstract	
Notes	
Genre	Journal Article
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00234610-19440401-0087

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

た田植時雇傭勞働は「家族勞働一人當臨時傭數三、四、五人前後で一人當面積最高となる」かのごとくである。

また後者、「適正規模調査報告」は前記「安定農家適正規模調査實施要綱」に準據し、「全國一道三府四三縣に亙り一、四九〇箇町村を選定し、更に各町村毎に代表的一部落を選定し其部落の全戸數三九、二九七戸に付戸別調査を實施した」調査結果（調査様式甲）の大要を收錄したものである。（調査對象とされた時期は昭和十五年三月一日より昭和十六年二月末日）。調査された事項は世帶の狀況及び勞働狀況、農業經營面積・貸付地・農場分散狀況、雇人・手傳人・農業勞働日數、主なる共同作業狀況、役畜利用狀況、農機具利用狀況、農業組織別生産狀況、農業の生産性、農業外所得、生活狀況、中産の生活を爲す場合の農家經濟安定性を含むきはめて廣汎な、かつ貴重な調査で、その分析からは恐らく興味ある幾多の事實がもたらされるであらうが、その成果はなほ將來を期さなければならない。

經濟表解註

渡邊建

一

重農主義經濟學派の旗標と稱せらるゝ經濟表 Tableau Économique にして、其立案者フランスワ・ケネェ Francois Quesnay 並に其最初の門弟ミラボオ侯 Victor Riquetti, Marquis de Mirabeau によりて描かれたるものは、未發見の經濟表初版本に其一表を挿入するものと推定して四十六表であり、之等を其機構に據りて分つ時は、原表（その省略せられたるものを含む）略表並に範式（略式を含む）の三種となる。

更に又、之等を佛蘭西の農業再建後の經濟的基本秩序を表式するものと、諸經濟問題を解くに使用せるものとに區分すれば次の如くなる。

- 經濟表
  - 原表
    - 基本表　九表
    - 應用表　八表
  - 略表
    - 基本表　二表
    - 應用表　二十一表
  - 範式
    - 基本表　二表
    - 應用表　四表

十七表
二十三表
四十六表
六表

而して、之等はいづれも數字と點線とによりて構成せられたものであるが、佛蘭西の農業再建後の經濟基本秩序を表式する其基本表十三表の數字に就ては既に拙稿「經濟表の生成發展」（『三田學會雜誌』第三十八卷第二號）に於て其根據を闡明にした。從つて、次は點線にて示めさるゝ其機構を解說するの順序であるが、先づ本稿に於ては其基本的原表九表に就て考究することゝする。而して、先づ第一に、ケネエ自らによりて最も精細なる解說を附せられたる經濟表第二版本挿入の二表（いづれも地主一戸平均の純所得六百リーヴルを基本とするもの）及び、更に、それを解說するミラボオ侯の『經濟表と其解說』の二表（地主一戸平均の純所得六百リーヴルを基本とするもの及び、それに、租稅三百リーヴル、十分ノ一稅百五十リーヴルを加算した一千五十リーヴルを基本とするもの）に就て、其機構の解說を試みることゝする。

從來、經濟表原表の解說としてはオンケン August Oncken の『經濟學史』"Geschichte National Ökonomie, 1902" 中の說明が一般に採用せらるゝのであるが、シュパン Othmar Spann は一九一一年の著『國民經濟學の主要諸學說史』"Die Hauptheorien der Volkswirtschaftslehre auf Dogmengeschitlicher Gruudlage." に於てオンケンの說明に誤りあるものと做し（S. 34. Note, 1911 : S. 40. Note, 1923.）改めて、經濟表原表の解說を行ひ、又、フエルカア Voelker 博士も一九三一年『シモオラア年報』Schmollers Jahrbuch (55. Jahrgange II halbband) 誌上に發表せる "Der Tableau économique Quesnay's und seine Erklärung" に於て、オンケンの經濟表原表の說明には矛盾なしとせざるものであるとして、一七六六年乃至七年以前の經濟表に關する諸著述は、殊に其用語が曖昧であり、又其の以後の著作は經濟表の圖表の說明に新たに何等重要なるものを附加せざるものであるとの理由によりて、ケネエの『經濟表の分析』とミラボオ侯の『農業哲學綱要』との記述に從ひて、更に改めて經濟表原表の解說を試みる。

然しながら、シュパンの說明も、フエルカア博士の解說も吾々を滿足せしむるものでないことは山口正太郎博士が『大阪商科大學經濟研究年報』第四號に發表せられし『經濟表の研究』に論述せらるゝ處である。而も、山口博士のこの研究も亦、經濟表原表の問題のすべてを解決するものではないのである。

故に本稿に於ては先づケネエ自身の手になる經濟表第二版の『經濟表の說明』に基づき、ミラボオ侯の『經濟表と其解說』を參照しつゝ、其挿入する地主の所得六百リーヴルを各階級の支出の基本とする經濟表原表を考究することゝする。

本稿の第一圖は經濟表第二版本の經濟表原表の邦譯であるが、各項の總額を、『農業哲學』並に、『農業哲學綱要』挿入の原表に準じて附記することゝす。

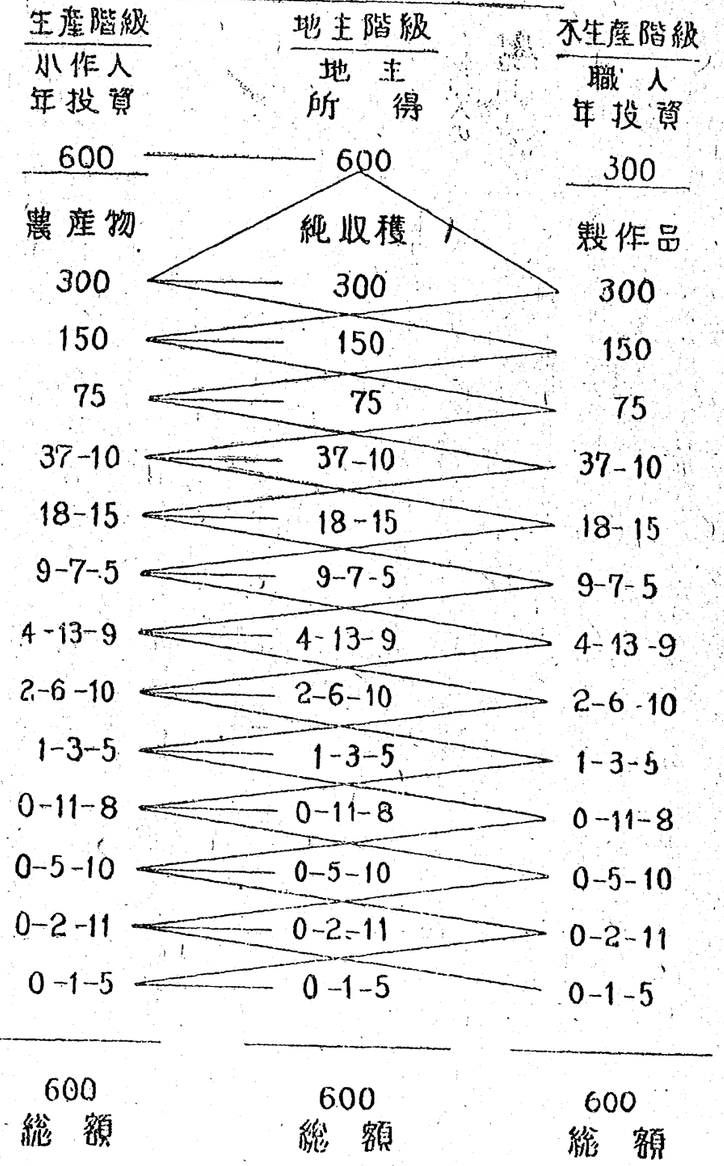
二

（一）　經濟表原表の第一段階―地主階級の所得と生產階級の年投資に就て

經濟表第三版挿入の原表が表示する各階級の支出の基本となる地主の所得六百リーヴルは既に檢考せる如く佛蘭西の當時の耕地四千萬アルパンに全般的に大規模耕作が實施せられて、原投資として三十三億三千三百三十四萬リーヴルが投資せられ、又牧場・葡萄園・池沼・森林等に十億リーヴルの原投資が投下せらるゝ農業の再建狀態に於て、十分ノ一稅としての一億五千萬リーヴルを除き、租稅三億リーヴルを納めたる後の地主の純所得額六億リーヴルを「大なる數字の細分が表を餘りにも大となすを避けんが爲めに」("Philosophie rurale" t. I. p. 121 : "Elémens" p. 18. p. 45) 地主階級百萬戸と算定するを以つて百萬分して算出せる地主一家の平均純所得である。故に、原表の中央の所得は「租稅徵收濟」"Impôt prélevé" と誌さる。（『三田學會雜誌』第三十八卷第二號六五頁參照）

第一圖

經濟表第二版原表



而して、經濟表の基本的狀態に於ては「英國に於ける如く」（"Tableau OEconomique by F. Quesnay" p. 6：岩波文庫『經濟表』四二頁）「年投資が原投資の基本によつて千割」"Tableau OEconomique by F. Quesnay" p. vi：岩波文庫『經濟表』二四頁）の純收益を生ずるものとする。故に原表の左側にこの「所得六百リーヴルを生産する爲の年投資六百リーヴル」と記し「其の生む純收益」として中央の地主の所得六百リーヴルと點線にて結ぶ。ケネエはこの過程を說明して「小作人によりて耕作に使用された年投資六百リーヴルを以つて農夫が前年度に生ぜしめた所の純收穫の賣却は所得六百リーヴルの支拂を地主に與へる」（"Tableau OEconomique by F. Quesnay" p. i.：岩波文庫『經濟表』一八頁―傍點筆者）と記述する。然るに、經濟表原表の此の第一過程に關して、從來二つの主なる疑問が持たれてゐる。

其疑問の第一は小作人の年投資に關するもので、それが農産物であるか、又は貨幣であるかと云ふことゝ、それが本年度の年投資であるか、それとも前年度のものであるかといふ二點である。

從來、オンケンの『經濟學史』の說明によりて漠然とそれは貨幣として解されてゐたのであるが、シュパンの『經濟學說史』に在りては經濟表に示さるゝ現象は凡べて財貨の移動であるとし、從つてこの年投資も農産物と解釋する。又フェルカテ博士も地主の所得を貨幣とすれば、小作人のこの年投資は農産物のみにより成るものであると解釋せねばならぬものであると主張する。（Schmoller Jahrbuch, 55 Jahrgange II halbband S. 79）

然しながら、本稿に在りては、ケネエが『經濟表の說明』に所得の中、經濟表の秩序に於て「生産的支出に移つて行つた三百リーヴルは其處へ貨幣で投資を齎らす」（"Tableau OEconomique by F. Quesnay" p. ii：岩波文庫『經濟

表』二〇頁―傍點筆者）ものであるとし、又生産階級の年「投資六百リーヴルはこの階級が地主と不生産階級とに對して行ふ賣却によつて貨幣を以て此階級に齎らさる」。（"Tableau OEconomique by F. Quesnay" p. iv：岩波文庫『經濟表』二一頁―傍點筆者）と記述するを以て、この生産階級の年投資六百リーヴルは貨幣であるとして解說することゝする。

この年投資が前年度のものであることは先に引用せるケネエの經濟表第二版の『經濟表の說明』によりても推定し得るが、ミラボオ侯の『農業哲學綱要』の Formule abrégé du Tableau Economique 本稿の所謂「經濟表略式」の說明に「右側の上部に現在の收穫を生産するために前年に於て支出せられた生産階級の（年）投資がある」。（"Eléments de la Philosophie rurale" p. 48.―傍點筆者）とあり、又ケネエの『經濟表の分析』の要約中の經濟表の範式の說明に在りても、「上には本年の所得を生ぜしむる爲に前年度に於て支出されたる生産階級の（年）投資額がある」（"Physiocratie" t. I. p. 62："OEuvres." p. 316：岩波文庫『經濟表』五四頁―傍點筆者）と明記される。

然るに、山口正太郎博士は經濟表原表に於て、「年々の前拂（本稿の所謂年投資）六百リーヴルがあつて其の直ぐ右に地主階級の所得六百リーヴルがあるから、此前拂（年投資）は右の六百リーヴルを生産するために要したかの如く感ぜられる」も、それは「經濟表を一見した時に生じ易き誤解」であると做して、經濟表原表に生産階級の年投資六百リーヴルと地主の所得六百リーヴルとが點線にて結びつけられてゐる關係を、殊更に否定して、「最初地主階級によつて生産階級と不生産階級とに等額三百リーヴルづゝ分配せらるゝ處の所得六百リーヴルは、本來地主階級が所有してゐた貨幣額と假定される」ものとして、貨幣循環の說明を地主が貨幣六百リーヴルを所有する狀態より開始する。（『大阪商科大學經濟研究年報』第四號九二頁、九六―九七頁）經濟表の範式に在りては、地主階級の所得と生産階級の年投資との間に點線を缺くが故に、地主階級が既に生産階級より其所得を受領し居るものとして斯く說明するも可なれども、經濟表原表にては、地主の所得と生産階級の年投資とが點線にて結ばれてあるを以つて、本稿の如く最初の一過程として、之を解說すべきものと信んずる。尙ボオドオ Abbé Baudeau は範式をも、地主階級の所得が生産階級より納付せらるゝ過程より圖解し解說するものである。（"Physiocrat's" par Daire, t. II. p. 866-7）

更に、この年投資を、本年度のものであると解せる山口博士は、之に本年の賣買過程によりて小作人の手に歸する貨幣六百リーヴルを加へて、本年度の小作人の年投資は結局一千二百リーヴルとなれば、「年々の前拂（本稿の年投資）六百リーヴルは、之あるがため、却て收益率は十割から五割に低下するものであり、無くとも濟まし得るものである」と論じ、この「年々の前拂たる農業經營上の資本の參如する必要なきものである」（『大阪商科大學經濟研究年報』第四號九四―九五頁）と批判せらるゝ結果となつた。故に、本稿に於ては前に引用せるケネエの經濟表第二版の『經濟表の說明』、及び『經濟表の分析』の要約、或はミラボオ侯の『農業哲學綱要』の記述に據りて、この生産階級の年投資六百リーヴルは本年度に於て支出せらるゝ地主階級の所得六百リーヴルの納付を可能ならしめた純收穫六百トーヴルを再生産するに要した、前年度の貨幣としての年投資であるとする。

第二の疑問は小作人の地主に納付する小作料六百リーヴルは農産物そのものであるか、或は貨幣であるか。換言すれば、經濟表に於ける小作料は物納であるか、金納であるかといふことゝ、若しそれが金納であるとすれば、何時、如何なる方法で、何人に、純收穫たる農産物が賣却されて貨幣化されたかといふ二點である。

シュパンは其『經濟學說史』に於て、ケネエの經濟表に在りては、當時佛蘭西に行はれてゐた分益小作農制度が考察の對象となるものと做し、（一九二三年の其十二＋十五版を鷲野隼太郎氏の譯出せる『シュパン經濟學說史』七四頁）先づフィジオクラアトの財の循環の觀念はケネェの經濟表に綜括されて居るとし、（B. ib.：邦譯七三頁）「最後に非常に重要なることは經濟過程を貨幣を考慮することなしに、純粹に商品の側からのみ觀察したところである。之れは私が今日と雖も一切の初學者に深く印象づけ得る原則である。……初學者は貨幣といふ面被を打破つて本來の經濟を見なければならぬ」（邦譯七八―七九頁）と、經濟表は財貨の循環のみを一方的に表現せるものとして其點を賞讃してゐる。

山口博士は經濟表原表の說明に在りては「最初地主階級によつて生產階級と不生產階級とに等額三百リーヴルづゝ分配せられたる處の所得六百リーヴルは本來地主階級が所有してゐた貨幣と假定される」（『大阪商科大學經濟年報第四號九二頁―傍點筆者）とするも、後の經濟表範式を解說するに當りては、「地主階級の所得二十億フランは地代の名儀の下に地主階級に納付せらるゝ農產物である」と解釋し（同年報一〇五頁）「此の物納は恐らく當時の實際ではあるが、然し物納とすれば、翌年度の初めに於て、地主階級が生產、不生產兩階級に支出する時に不都合を生ずる。地主階級が、既に、農產物の儘、純收入を所有するならば、翌年度の初めに其半額を以て生產階級から農產物を購入することは無意味である。然らば、純收入（本稿の純收穫）は生產階級の手にある際か、地主階級の手に移つてからか、兎に角、貨幣と交換せられねばならぬ。此の賣買過程、即ち財の貨幣との流通過程が、經濟表に於ては、原表に於ても、略表（本稿の範式）に於ても、示されてゐない」（同年報一〇六頁）と批判し、「純收入（本稿の地主の所得）を貨幣とすれば、年々の前拂（本稿の年投資）は農產物となり、逆に、年々の前拂を貨幣とすれば、純收入は農產物とならねばならぬ。而して兩者とも翌年度の支出に於ては、是非とも貨幣の形態を採ることを要するとすれば、之等の農產物と交換されたる過程が何處かに示されねばならぬ。然るに、此過程は原表に於ても、略表（本稿の範式）に於ても、亦私の掲げた前表（同年報一〇五頁掲載の山口博士の經濟表範式の解說圖表）に於ても、遂に示されてゐない」（同年報一〇七頁）ものであるとせられる。又同樣の疑問を小泉信三博士も持たれたものゝ如く、其『學窓雜記』に編輯された「『經濟表』と『純粹經濟學』」の中に、「所謂純收益として農民から領主に納付せらるゝものは、果して農產物現物であるか、それとも農產物の賣却代金であるかゝ、はつきりしない。若し現物とすれば、それを收入として受入れた領主が農產物を購入する爲めに其一部分（ケネェの表では一半）を、再び農業階級に支拂ふといふことが意味をなさぬし、又、若し、地主への納付が、賣却代金で行はれるとすれば、その農產物は一體誰れに賣られたか。「表」に現れた三階級以外に其買手がなければならぬといふ事にならう。甚だ不可解である」（『學窓雜記』一七一頁）と記述される。

先づシュパンが記せる如く、經濟表は貨幣を考慮することなく、全然財貨の方面のみから考察すべきものであらうか。否、寧ろ、反對に經濟表は少くも、其表示する限りに於ては、貨幣の循環を示したものであると考へられる。ミラボオ侯は『經濟表と其解說』に經濟表を「生活物資によらずして、貨幣によりて表示せらるゝ循環の全機構」に、外ならざるものであると做し、（"L'Ami des Hommes" t. VII p. 16）又『農業哲學』に於て、「經濟表が貨幣の循環のみを考察し、表示せるは合理的である」（"Philosophie rurale," t. I. p. 52）と述べ、「此賞讃すべき發明の最も有用なる結果の一つは貨幣を其の眞の特性に限定したことである」と做して、經濟表の主要なる目的は、貨幣を其特性たる交換の媒介物に限定せることにあると言ひ得らるゝものであると力說し、地主階級の貨幣所得

が、人體に於ける血液の如く、社會各階級を循環するものであつて、其速さ及び規則正しさによりて、社會の健康を人體の脈搏によると同樣に判斷し得るものであると論ずる。（"Philosophie rurale," t. I. p. 54）

故に、ケネエ自身も、經濟表第二版の『經濟表の說明』に、「地主の所得六百リーヴルの中、經濟表の秩序に於て、生產的支出に移つて行つた三百リーヴルは其處へ貨幣で投資を齎らす」ものと記述し、地主階級より賣却代金として受け取る金額は、生產及び不生產兩階級の相互的流通と分配とによりて最少の金額に至るまで、同じ順序で細分せらるゝものと說くのである。（"Tableau OEconomique Economique by F. Quesnay" p. ii-iii：岩波文庫『經濟表』二〇頁―傍點筆者）

又、シュパンは、地主の取得する農產物の一半が、其生活必需品を得るために農夫の手に逆流する過程に註釋して、「之に就ては、その當時行はれてゐた分益小作農制度、即ち、土地收穫物の半分が小作人の懷に殘る制度が考察の對象となつてゐる」（鷲野隼太郎氏譯『シュパン經濟學說史』七四頁）と做す。このシュパンの解釋は、地主と小作人間のこの過程を、地主の農產物購入過程とせずして、兩者の收穫分配の過程と做すもので、「地主によつて、所得六百リーヴルの一半は麵麭・葡萄酒・肉等のために生產階級に向つて支出され云々」（p. i：岩波文庫『經濟表』一九頁）といふケネエの說明に、一致せざるものである。又、ケネエが「玆では半を以て行はれる小規模耕作（即ち、分益小作農）に就て云つて居るのではない」（"Tableau OEconomique by F. Quesnay" p. vi：岩波文庫『經濟表』二四頁）と注意するに據りても、經濟表が斯る分益小作農制度を基礎とするものでないことは明かである。

而も、『大百科全書』の第六卷『小作人』の項に、ケネエは、當時の分益小作人の中にも、「小作料や、家畜購入の資金の利子として、貨幣で地主に收入を與へるものがあり、而も、一般にこの收入は非常に少いが、自分の所有地に居住せずして收獲の分配を取得し所ない多くの地主はこの協定を選ぶ」（"Encyclopédie," t. VI. p. 529："OEuvres de F. Quesnay" par Oncken p. 160）ものであると論ずる。從つて、大規模耕作を前提とする經濟表に於て、小作料が物納であるとは考へ得られない。故にケネエは經濟表第二版の『經濟表の說明』に「農夫が前年度に生ぜしめた所の純收穫の賣却」（"Tableau OEconomique by F. Quesnay" p. i：岩波文庫『經濟表』一八頁―傍點筆者）が、地主に共所得六百リーヴルを與へるものであると記述するのである。こゝに於て、本稿にては、生產階級の小作人の年投資六百リーヴルを貨幣であるとしたが、更に又、この地主の所得六百リーヴルをも貨幣であるとする。然らば、兩者いづれも貨幣として何等不都合を生ずることなきか。又、斯く小作料を金納として、純收穫の賣却は何時、何人に對して行はれたか。斯くの如き疑問に答へねばならぬことゝなるが、それは經濟表原表の貨幣循環の過程に於て自ら明らかとなるを以つて、原表の說明を續行することゝする。

而して、經濟表原表の第一段の過程たる小作人が、小作料として、地主に貨幣六百リーヴルを納付する時は、貨幣のみが一方的に移動するのであるが、爾後の過程に在りては、何れも貨幣が、購入する商品の代價として支拂はるゝものであるから、貨幣の移動毎に、必ず等價値の財貨が反對の方向に移動するものと考へねばならぬ。故に『農業哲學』に、ミラボオ侯は「循環する貨幣によりて購入せられる日常生活に必要なる財貨の存在を想定せねばならぬ」ものと做し、「支出された貨幣額と等しき商品の購入を想像せねばならぬものであるから、一定額の貨幣の一循環はその二倍の價値の財貨の存在を推定し得るものである」（"Philosophie rurale" t. I. p. 65）と論ずる。

又、ケネエは『經濟表の分析』の要約に、經濟表範式を解說して「そこには販賣と購入とがあり、從つて、販賣せられた（財貨の）價値と購買のために支拂つた（貨幣の）價値とがある」。（"Physiocratie" t. I. p. 63. note 5：

"Œuvres," p. 315 note i：岩波文庫『經濟表』五五頁註(一)ことを注意する。故に、本稿の第三圖解說圖表に於ては、貨幣の循環と同時に移動する財貨の變化を、表の兩側に、矢の方向によりて、附記して其關係を明かにせんと試みた。

三

(二)　經濟表原表の第二段階—地主階級の所得の支出とそれによりて生ずる變化に就て

(1)　地主階級の所得の支出に就て

經濟表原表の第一段の過程に於て、小作人より小作料を受け取り、租稅を納付して後、六百リーヴルの貨幣を取得したる地主は、麵麭・葡萄酒・肉等を購入するためにこの純所得の一半を生產階級に支出し、他の一半を以つて衣服・家具・家財等を不生產階級より購入するものと做す。("Tableau OEconomique by F. Quesnay" p. i：岩波文庫『經濟表』一九頁)斯く地主が、其所得を生產・不生產兩階級に等分に支出することが、經濟表の基本的秩序であり、斯くして、初めて、恒久的に同額の農產物の再生產が可能となり、從つて、年々同額の地主階級の所得が保證せられ、年々同額の貨幣が同じ循環を反覆し得ることゝなるのである。而して、この購入する農產物三百リーヴルと、製作品三百リーヴルの使用消費によりて、地主の一家は一ケ年の生活を營むものとする。

然らば、この過程に先立つて當然、生產階級の小作人は三百リーヴルの農產物を、又、不生產階級の職人は三百リーヴルの製作品を所有してゐたものと考へねばならぬ。

この意味に於て、經濟表原表の上部左側に「農產物」、右側に「製作品」と記入されてあるものと思はれる。而して、此等を地主に賣却せる後、彼等は、何れも、三百リーヴルの貨幣を所有することゝなる。即ち、商品の貨幣への形態變換が行はれたのである。本稿の第三圖原表解說圖表に在りては、この變化を、矢標を以つて、原表の兩側に示すことゝする。

(2)　生產階級に生ずる變化

次いで、ケネエは、地主の「所得の中、經濟表の秩序に於て生產的支出に移つて行つた三百リーヴルは其處へ貨幣で投資を齎し、それが地主の所得の再生產の一部を成す所の純收穫三百リーヴルを再生產する」(ibid., p. ii：岩波文庫『經濟表』二〇頁—傍點筆者)と說明する。これ、實に、本年度の年投資六百リーヴルの一半を形成する貨幣資本三百リーヴルであり、生產階級の農業經營者たる小作人が所有せる商品としての前年度の純收穫の農產物の一部が賣却によりて、貨幣資本に轉化したのである。而して、この貨幣資本が、そのまゝで、直ちに純收穫を生產するものでないことは當然である。ケネエは「地主に農產物を賣却することによつて、此生產階級に歸來せる是等(貨幣)三百リーヴルは、小作人によつて其一半は該階級の供給に係る農產物の消費のために支出され、他の一半は衣服・家具・道具等の保存に支出されて、不生產階級への支拂に供せられる」("Tableau OEconomique by F. Quesnay" p. ii：岩波文庫『經濟表』二〇頁)ものと做す。斯くて、貨幣資本三百リーヴルは百五十リーヴルの農產物と百五十リーヴルの製作品との生產要素に變化せらるゝのである。この生產要素三百リーヴルの使用消費は百パーセントの「純收穫を伴つて再生產さる」("Tableau OEconomique by F. Quesnay" p. ii：岩波文庫『經濟表』二〇頁)るのである。而して、經濟表原表はこの純收穫三百リーヴルのみを表の中央に記入するものであるが、本稿の第三圖解說圖表に在りては、この外に投資の回收分たる三百リーヴルの再生產をも附記し、二者を合した農產物再生產額を明らかにすることゝする。

此過程のケネエの説明を紹介せるオンケンの經濟學史の解説は、シュバンによりて誤解せらるゝことゝなつた。シュバンは、「私はオンケンの複寫及び説明に從つた。然れども、それが説明のうち、三九五頁の最後の章句（パラグラフ）は、農業に流入する二千（地主階級の所得二千リーヴルを基本とする『農業哲學』の經濟表原表に據るが故に、一千リーヴルとするが、本稿の如く經濟表第二版の地主の所得六百リーヴルを基本とする經濟表原表に在りては三百）リーヴルは、最初に半減され、五百（本稿にては百五十）リーヴルは工業に移り、斯くて殘餘は、倍加されて一千（本稿にては三百）の純收穫を齎らすとなつてゐるが、それは誤謬であると考へる。且つそれは三九五頁第一章句の彼（オンケン）の説明とも矛盾し、また『ケネエの著作集（オンケン編纂）』の三〇五頁以下とも撞着する」と誌す。（"Die Hauptheorien der Volkswirtschaftslehre auf dogmengeschichtlicher Grundlage" 1911. S. 34. note : 1923 p. 40 : 鷲野隼太郎氏譯『シュバンの經濟學説史』七四頁註、この譯本の卷尾の經濟表にては數字の單位を磅とするもそれはリーヴルの誤りである。尚、表中、不生産階級の年投資をも二千磅と誤つてゐるが、之はシュバンの第十二―十五版（四二―四三頁）の經濟表が二千リーヴルと誤るが故である。但し、シュバンの一九一一年の初版本（三四―三五頁）の表に於ては、之を一千リーヴルと正しく記載する。）

斯くして、シュバンは「地主より農業に誘入される一千（本稿の場合にては三百）リーヴルの農産物が共所で生産的に消費せられて（二千本稿の場合にては六百）リーヴルの農産物を生産し、その中の半分純收穫一千（本稿の場合にては三百）リーヴルは再び地主の懷に入る」（鷲野氏邦譯七四頁）ものとする。要之、シュバンは農物の生産階級に於ける消費のみが、純收穫を生ずるものと解釋する。

而して、フエルカア博士も「吾々の知る所では一般に定評があるオンケンの經濟表の説明も矛盾がないとは思はれない。經濟表に於て述べらるべき貨幣の循環を、オンケンの説明に從つて追及せんと努力するも、恐らく何人も殆んど滿足する結果を得ないであらう」（同誌七四頁）とて、シュバンの意見に同意するも、尚、經濟表の交換現象は、シュバンの如く財貨のみによりて一方的に解釋すべきものでないと做して、地主階級より農産物賣却代金十億（全國的に考察して十億となすが本稿の場合に於ては三百リーヴル）の貨幣を受領せる生産階級はこれを以つて十億（本稿の場合にては三百リーヴル）の農産物を再生産し、後不用となれる十億（本稿の場合にては三百リーヴル）の貨幣は、之を次年度の初めに、地主階級に納付すべく保有するものと解釋し、生産階級より不生産階級に支出される貨幣五億（本稿の場合にては百五十リーヴル）は不産階級が地主階級より製作品の賣却代金として受け取る十億（本稿の場合にては三百リーヴル）を、生活のため並に製作品の原料のために購入する農産物の代價として全額、生産階級に支出したその一半を生産階級が購入する製作品の代金として不生産階級に支出するものと、説明する。斯くて、生産階級は手元に殘る貨幣五億（本稿の場合にては百五十リーヴル）を以つて、五億（本稿の場合にては百五十リーヴル）の農産物を再生産し、後、不用となる五億（本稿の場合にては百五十リーヴル）の貨幣は、之を次年度の初めに、地主階級へ納付すべく保有するものと考察する。（同誌八〇―八五頁）

斯くの如く、フエルカア博士は生産階級に殘留する貨幣のみが、純收穫を再生産するものと解釋するのであるが、貨幣そのものが如何にして再生産をなし得るであらうか。

從つて、シュバンにしても、フエルカア博士にしても、いづれもオンケンの説明からして、ケネエが、生産階級が農産物の賣却代金として受け取る貨幣を資本とし、それを支出して農産物と製作品とよりなる生産要素となし、その財貨の使用消費によりて、その百パーセントの純收穫たる農産物を再生産すると説くを、理解し得なかつたも

のと言はねばならぬ。

生産階級が、農産物の賣却代金として受け取る貨幣は、年投資となるものであるが、その支出に就ては、ケネエは「其一半は該階級の供給に係る生産物の消費に支出され、他の一半は衣服・家財・道具等の保存に支出されて不生産階級への支拂に供せられる」（"Tableau OEconomique by F. Quesnay" p. ii：岩波文庫『經濟表』二〇頁）と說明し、後には、「生産階級の年投資は、之亦毎年再生し、而して其の中の略々半額は、家畜の飼料に支出され、他の半額は此階級の諸勞働に從事する人々に對する賃銀に支出される」（ibid., p. iva：岩波文庫『經濟表』二二頁）と記述する。

而して、ケネエ手記の經濟表の側面の註釋の中に、地主階級の所得と「同じく毎年再生し、而して其約半額は人間の勞働に對する賃銀となる所の生産階級の諸費用は更に二億を附加し、後者は更に各自二百リーヴルとして百萬の家長を養ひ得る」（Oncken "Geschichte" S. 324-5：岩波文庫『經濟表』三頁）と、生産階級の年投資四億リーヴルの回收の半額二億リーヴルの農産物が農業勞働者百萬戸によりて消費せらるゝものとなし、更に、又、經濟表第二版の第二表即ち活版刷の表の側面の註釋にては其數字を變更して、生産階級の年投資六億リーヴルの回收の半額三億リーヴルの農産物が、農業勞働者百萬戸の生活のために、消費さるゝものとし、生産階級に經營者と同戸數の勞働者があるとする。（"Tableau OEconomique by F. Quesnay" p. 2.：岩波文庫『經濟表』三三頁參照）

而して、この農業勞働者の賃銀は農産物で給與せらるゝものとするか、或は貨幣で支拂はるゝものとするかと言ふに、この點に就て、ケネエは、一七六六年の『農商財政雜誌』八月號に寄稿した『（第一）經濟問題』"Problème Economique" に於て、生産階級に其年投資の回收として先取得さるゝ農産物の一半が、穀價騰貴の影響を受くることを注意して、農業經營者たる小作人は、「その使用する僕婢と農業勞働者に與へる賃銀の支拂に應ずるため、この年投資の半分を形成する農産物を賣却せねばならぬ」（"Physiocratie," t. II. p. 189. "OEuvres" par Oncken, p. 498）と論述する。故に、農業經營者が其使用する勞働者に支拂ふ賃銀は、貨幣であり、この貨幣を以つて、勞働者は農業經營者が年投資の回收として先取得せる農産物の一半を購入し、消費するものと解し得らるゝのである。即ち、貨幣としての生産階級の年投資の「半額は此階級の諸勞働に從事する人々に對する賃銀に支出され（"Tableau OEconomique by F. Quesnay" p. iv：岩波文庫『經濟表』二二頁）次いで農業勞働者によりて「該階級の給與に係かる生産物の消費に支出され」（ibid., p. ii：岩波文庫『經濟表』二〇頁）るものと、本稿にありては、前に引用せるケネエの說明を補足する。

斯くて、雇傭する農業勞働者の賃銀として、一旦、支拂はれたる貨幣三百リーヴルは、彼等の生活のために購入さるゝ農産物の代金として、再び小作人の手に復歸することゝなる。

而して、貨幣としての生産階級の年投資の「他の一半は、衣服・家財・道具等の保存に支出されて不生産階級への支拂に供せられる」（"Tableau OEconomique by F. Quesnay," p. ii：岩波文庫『經濟表』二〇頁）ものである。

故に、本稿に於ては、地主階級より農産物の代金として受け取る貨幣三百リーヴルを、生産階級の農業經營者たる小作人は、之を貨幣形態の年投資の一部として、其使用する勞働者に其一半百五十リーヴルを支拂ひ、他の一半百五十リーヴルは、農具・家具等の修復・保存のために購入する製作品の代價として、不生産階級に支拂ふものとする。

斯くて、生産階級の貨幣資本の一部としての三百リーヴルは、農業勞働者の消費する農産物百五十リーヴルと製

作品百五十リーヴルとの生産要素に轉化さるゝものと解し得る。而してこの生産要素三百リーヴルの使用・消費によりて、再び六百リーヴルの農産物が生産せらるゝが、それより、其年投資としての年支出三百リーヴルを、回收すべく先づ取得する農産物を除いた、三百リーヴルの農産物が、本年度の純收穫となるもので、經濟表原表は、この三百リーヴルのみを表の中央に記載するのである。

然しながら本稿の第三圖經濟表原表解說圖表に在りては、年支出の回收分と農産物再生總額とを記入することゝする。

(3) 不生産階級に生ずる變化

不生産階級の一職人は、其所有する製作品の中の三百リーヴルを、地主階級に賣却して、代金として貨幣三百リーヴルを受け取る。而して、この貨幣三百リーヴルは、ケネエの說明に據れば、「職人によつて一半は食物の爲め、手工製作品の原料の爲め、並に對外貿易の爲めの生産物の購入の爲めに、生産階級に支出され、他の一半は保存の爲め並に投資の回收の爲めに、不生産階級そのものへ分割される」（"Tableau OEconomique by F. Quesnay" p. iii: 岩波文庫『經濟表』二〇頁）と。然るに、ケネエは、更に、一ヶ年間の流通の結果を總括しては、「流通は不生産階級へ六百リーヴルを齎らすが、其の中の：三百リーヴルを年投資として留保しなければならないから、賃銀としては三百リーヴル殘る。此の賃銀は此の（不生産）階級が生産階級から受取る所の三百リーヴルと同額であり、而して投資は（地主階級の）所得の中で、此の同じ不生産階級へ移つて來る三百リーヴルと同額である」（"Tableau OEconomique by F. Quesnay" p. iii：岩波文庫『經濟表』二〇—二一頁）と論述する。斯くて、又、後の『經濟表の分析』に在りては、「收入の所有者が買入によつて不生産階級へ支出した十億は、不生産階級を構成せる人々の生活に要する生産物を生産階級から買入るゝ爲に不生産階級によつて用ひられる」（"Physiocratie," t. I. p. 49: "OEuvres" par Oncken, p. 310：岩波文庫『經濟表』四七頁）とし、又生産階級が製作品を購入する爲めに不生産階級に支出せる十億は、不生産階級によりて、「原料購入の爲めに、生産階級へ、まづ支出されたるその投資の回收として保有さる」（"Physiocratie," t. I. p. 50："OEuvres," p. 310：岩波文庫『經濟表』四八頁）ものとなす。故に、本稿に在りては、地主階級に賣却せる製作品の代價として、不生産階級の一職人が受取る貨幣三百リーヴルの一半百五十リーヴルは、其生活に消費する農産物購入の爲めに、生産階級に支出され、他の一半の貨幣百五十リーヴルは、同じ不生産階級に屬する他の職人の製作品購入のために不生産階級そのものへ支出さるゝも、之は相互的賣買によりて再びこの職人の手に復歸して、前年度の年投資三百リーヴルの部分的回收となり、再びそれは本年度の投資として、製作品の原料購入のために、生産階級に支出さる可く保有さるゝものと解釋する。

四

(三) 經濟表原表の第三段階以下—生産不生産兩階級間の相互的賣買過程と、それによりて生ずる變化に就て

地主階級より農産物或は製作品の代金として夫々三百リーヴルの貨幣を受取る生産・不生産兩階級は、更に、其所有する農産物、或は製作品を、相互的に賣買することによりて其貨幣を最小の金額に至るまで、同じ順序で、細分しつゞける。

斯くの如き過程を、經濟表原表第三段階以下に表示するのであるが、この相互的賣買によりて生産・不生産兩階級に生ずる變化を考察することゝする。

(1) 生産階級に生ずる變化

既述の如く、不生産階級は、地主階級より受け取る貨幣三百リーヴルの一半百五十リーヴルを以つて、生活の爲めに消費する農産物を購入することゝなる。從つて、生産階級の農業經營者たる小作人は、當然、不生産階級の職人に賣却する百五十リーヴルの農産物を所持し居たものと考へねばならぬ。而して、之は、前年度の純收穫の一部に外ならぬもの、この商品としての農産物が不生産階級に賣却せられ、生産階級の農業經營者は其代價として貨幣百五十リーヴルを受領することゝなる。この百五十リーヴルの貨幣は前年度の年投資の部分的回收であり、更にそれは本年度の年投資の一部として、其一半七十五リーヴルは其使用する農業勞働者の賃銀の爲めに同じ生産階級に支出され、他の一半、七十五リーヴルは購入する製作品の代價として不生産階級に支出さるゝものとす。而して、農業勞働者は、生活のために消費する農産物の代價として、其賃銀所得七十五リーヴルを農業經營者に支拂ふ。斯くて、この農業勞働者の食料としての農産物七十五リーヴルと製作品七十五リーヴルとの使用消費によりて、農産物三百リーヴルが再生産せらるゝが、これより年支出としての百五十リーヴルを回收するために先取得する農産物を除く、百五十リーヴルの農産物が本年度の純收穫として經濟表原表の中央に記載さる。

而して、本稿の第三圖解說圖表に在りては、この純收穫の外に、年支出の回收分と、農産物再生産額とを記入することゝする。

(2)　不生産階級に生ずる變化

既に論ぜる如く、生産階級は地主階級より受取る貨幣三百リーヴルの一半百五十リーヴルを以つて、農具・家具の保存修理に製作品を購入することゝなる。從つて、不生産階級の職人は、當然、生産階級に賣却する百五十リーヴルの製作品を、所持し居たものと考察せられる。而して、之が生産階級に賣却せらるゝや、不生産階級の職人は、其代價として百五十リーヴルの貨幣を受取ることゝなる。此の貨幣百五十リーヴルの一半、七十五リーヴルを、職人は其生活のために消費する農産物購入のために生産階級に支出し、他の一半七十五リーヴルは、一度は、製作品購入の爲めに同じ不生産階級の他の職人に支拂ふも、之は相互的購入によりて、この職人の手に復歸するものと解される。

斯くて、生産階級より不生産階級の一職人の手に渡る貨幣百五十リーヴルの一半七十五リーヴルは生活のための農産物に轉化するも、他の一半七十五リーヴルは貨幣として職人の手に在り、これは前年度の年投資三百リーヴルの部分的回收となり、更に、再び本年度の年投資三百リーヴルの一部として、製作品の原料としての農産物購入の爲めに、生産階級に支出さるべく保有さるるものと考察され得る。

斯の如き生産・不生産兩階級間の相互的賣買過程は、原表第三段階以下に表示せらるゝが、ケネエは「此の相互的の流通と分配とは金額の細分により、一方の階級から他の階級へと相互に移り行く最小の金額に至るまで同じ順序で繼續される」（"Tableau OEconomique by F. Quesnay" p. iii：岩波文庫『經濟表』二〇頁）と說明する。

最後に斯の如き經濟表原表の一ヶ年間の流通過程を本稿の第三圖解說圖表を參照しつつ階級別に總括すれば次の如くなる。

(1)　地主階級に於て

地主階級の一地主は、生産階級の農業經營者たる一小作人より、小作料として納付せられた貨幣六百リーヴルを所得とし、之を生産・不生産兩階級に折半に支出して、購入する三百リーヴルづつの農産物と製作品とを、一ヶ年の生活に使用・消費する。

(2) 生産階級に於て

生産階級の小作人は、前年度の純收穫としての農産物六百リーヴルを、最初、他の階級に賣却すべく所有してゐたが、其三百リーヴルを地主階級に、他の三百リーヴルを不生産階級に賣却する。

この賣却代金六百リーヴルは、前年度の年投資の回收であり、更に之は、本年度の貨幣形態の年投資として、一半三百リーヴルは其使用する勞働者の賃銀として、同じ生産階級内に支拂はれ、他の一半三百リーヴルは、製作品の購入代金として不生産階級に支出さるゝものとす。而して、農業勞働者の賃銀として支拂はれたる三百リーヴルの貨幣は、彼等の生活の爲めに消費する農産物の代價として農業經營者たる小作人の手に復歸するものである。

斯くて、生産階級の農業經營者の商品資本としての前年度の純收穫六百リーヴルは、地主並に不生産階級に賣却されて、貨幣資本としての本年度の年投資六百リーヴルとなり、更にそれは、勞働者の食料としての農産物三百リーヴルと、製作品三百リーヴルとの生産要素に轉化し、この財貨六百リーヴルの使用消費によりて農産物一千二百リーヴルが再生産され、而して、これは年支出としての年投資六百リーヴルの回收分と、純收穫としての六百リーヴルとである。

(3) 不生産階級に於て

不生産階級の一職人は最初、他の二階級に賣却すべき前年度の製作品六百リーヴルを所有して居たが、其三百リーヴルを地主階級に、他の三百リーヴルを生産階級に賣却する。而して、この賣却代金六百リーヴルの内、三百リーヴルを自らの賃銀と做し、これを生活のために消費する農産物を購入すべく生産階級に支出し、他の三百リーヴルの貨幣は同じ階級の他の職人の製作品購入のために一度は支出さるゝも、これは相互的賣買によりて再びこの職人の手に復歸して、前年度の年投資三百リーヴルの回收となり、更に本年度の貨幣形態の年投資として保有せらるるものとする。

斯くて、經濟表原表が表示する流通過程は總括せられたのである。然しながら、フェルカヲ博士が、『農業哲學』の地主階級の所得二千リーヴルを基本とする經濟表原表を『農業哲學綱要』の同じ二千リーヴルの所得を基本とする濟經表略式 Formule abrégé du Tableau Economique に比較して、原表は三階級間に行はるる凡べての流通過程を表示して居ないことを指摘するが（Schmoller Jahrbuch, 55 Jahrgange, II halbband 1931. S. 83）洵に、經濟表の原表に在りては、生産・不生産兩階級間の賣買過程の一つ、即ち、不生階級の年投資が製作品の原料となる農産物の代金として、生産階級に支出さるる過程が表示されて居ないのである。

五

ケネエは不生産階級の年投資三百リーヴルに就て、「商業の資本及び費用に使用され、手工製作品原料の購入に使用され、又職人が自己の製作品を完成し、賣却し終る迄の食料及び其の他の必要品に使用される」（"Tableau OEconomique by F. Quesnay" p. i：岩波文庫『經濟表』一八頁）と說明する。而して、經濟表に在りては「商業を其中に加へない」（ibid., p. v：岩波文庫『經濟表』一三頁）ものと做すが故に、結局、經濟表の不生産階級の年投資三百リーヴルは、製作品の原料並に其製作品を完成し、賣却し終る間の職人の生活の爲めに、消費さるる農産物の購入に使用さるゝ金額と解せられる。從つて、ケネエは、「地主の所得中、不生産階級に移つて行つた三百リーヴルは、職人によつて、一半は食物の爲め手工製作品原料の爲め……生産階級に支出され」（"Tableau OEconomique by F. Quesnay" p. iii：岩波文庫『經濟表』二〇頁）るものと說明した。要するに、第二版の『經濟表の說明』に在り

ては、不生産階級の年投資三百リーヴルの貨幣も食料並に原料とする農産物を購入するものであり、又この階級が地主・生産兩階級より受取る製作品の一半三百リーヴルの貨幣も、同樣、食料並に原料とする農産物を購入する爲めに、生産階級に支出されたものと解釋するのである。而も、一ヶ年間の流通の結果を考察してケネエは、「流通は不生産階級へ六百リーヴル（の貨幣）を齎らすが、其の中の三百リーヴルを年投資として留保しなければならないから、賃銀としては三百リーヴル殘る。この賃銀は、此の不生産階級が、生産階級から受取る所の三百リーヴルと同額であり、而して投資は、所得の中で同じ不生産階級へ移つて來る三百リーヴルと同額である」（ibid., p. iii：岩波文庫『經濟表』二〇―二一頁）と記述する。然しながら、ミラボオ侯の『農業哲學』の地主階級の所得二千リーヴルを基本とする各階級の支出秩序を表式せる略式の附記に於ても、又ケネエの『經濟表の分析』の範式の說明に在りても、不生産階級の年投資は製作品の原料とする農産物の購入のためにのみ使用せらるゝものとし、不生産階級が他の階級に賣却する製作品の代金として受取る貨幣の他の一半は、不生産階級のものが、其製作販賣の期間中、生活のために消費する農産物購入の爲めに生産階級に支出するものと說述する。故に、本稿に在りては、經濟表原表の說明に於ても、不生産階級の他の二階級より受取る製作品の代金六百リーヴルの一半は、其階級のもの丶賃銀として製作中の製作・販賣の期間中、食料として消費する農産物購入のために生産階級に支出するものとし、他の一半三百リーヴルの貨幣は一度は不生産階級内の他の職人の製作品購入のために支出せらるるも、相互的賣買によりて再びこの職人の手に復歸して、其製作品の原料とする農産物を購入する本年度の年投資として留保せらるるものと解釋した。即ち不生産階級の年投資は製作品の原料となる農産物の購入に使用さるべきものとす。

而して、經濟表原表は、斯くの如く、不生産階級の本年度の年投資が貨幣形態のまゝ其階級に保有せらるゝ狀態に於て、其流通過程を止めてゐるのである。

然しながら、不生産階級の年投資三百リーヴルの貨幣が、生産階級に支出せられて、製作品の原料となる農産物三百リーヴルが購入せらるゝことがなければ、不生産階級の一職人は、翌年度に於て、他の二階級に賣却する六百リーヴルの製作品を本年度、製作し得ず、又、製作品の原料となる農産物の代金として、三百リーヴルの貨幣が、不生産階級より支拂はるることがなければ、生産階級の農業經營者は、僅かに三百リーヴルの貨幣を所有するに止まりて、小作料として、地主階級に六百リーヴルの貨幣を納付し得ざることゝなる。

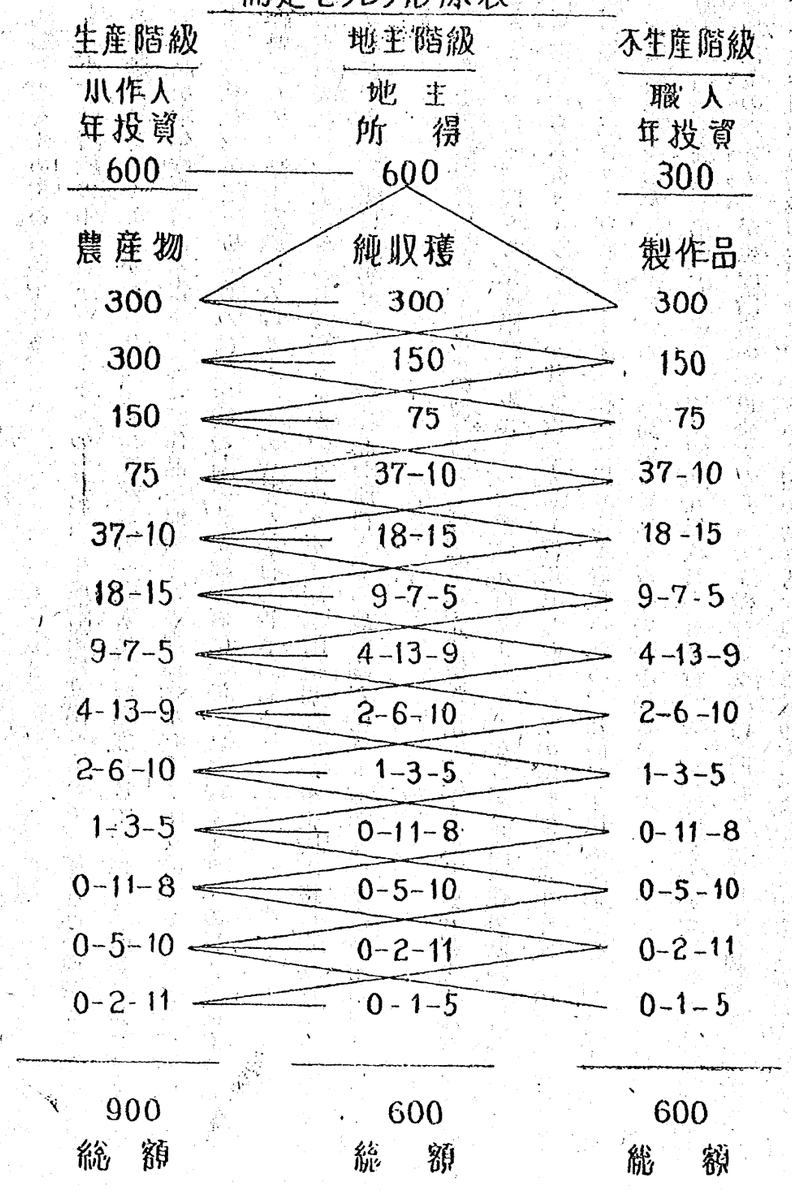
故に、經濟表原表には、表示せられて居ないが、生産・不生産兩階級間には、不生産階級に保有せられた其年投資三百リーヴルが、生産階級に支出せられ、製作品の原料となる農産物が購入せらるゝ一過程が存在することを認めねばならぬ。

斯くて、地主・生産兩階級に六百リーヴルの製作品を賣却せる不生産階級の一職人は、其賣却代金の總額を生産階級に支出することゝなる。因りて生産階級の取得する貨幣は九百リーヴルとなるが、其内、他の階級の食料として、賣却せる農産物の代金六百リーヴルのみが其年投資として使用せられて十割の純收穫を再生産するのである。この不生産階級の年投資三百リーヴルも、生産階級に支出さるゝ過程を認め、强いて、原表の形式にて、この三階級間の凡べての支出過程を表示すれば、次の如き「補足せられたる原表」を得る。

柴田敬博士は『經濟論叢』第三十一卷第二號（昭和五年八月一日發行）の「經濟表について」に於て、農産物の凡べての賣却代金の三分ノ二が生産階級の年投資となるものと做せるが故に（同誌一二五頁第六圖參照）、「地主の支出が生産、不生産何れの階級の生産物に、より多く傾かうとも、單なる其の事によつては國富は影響されない」（同

第二圖

補足セラレタル原表



誌一二四頁●一二五頁第七圖參照）ことゝなりて、ケネエが經濟表第二版の『經濟表の說明』中に不生産的支出の「何れか一方が他方に優る程度の大小如何」即ち「食料の奢侈に耽る程度の大小により、或は裝飾の奢侈に耽る程度の大小によりて」、所得の年々の再生産に及ぼす變動に就ての論旨（Ibid., p. ii ：岩波文庫『經濟表』九頁）を立證し得なかつたのである。

又、斯く、不生産階級の年投資として保有せらるゝ貨幣三百リーヴルが製作品の原料たる農産物の代金として生産階級に支出さるべきことを洞察することのなかつた山口正太郎博士は、「生産階級に殘る三百リーヴルの貨幣こそ、經濟表を破壞する癌である。」（『大阪商科大學經濟研究年報』第四號九六頁）と論斷せらるゝが、之は製作品の原料としての農産物の代金として不生産階級より受取る貨幣三百リーヴルと合して、生産階級より小作料として地主階級に納付せらるゝものである。

要約すれば、本年度の最初、前年度の小作料として生産階級の小作人より地主階級に納付せられた貨幣六百リーヴルは一半は地主階級より其食料の代價として生産階級に直接支拂はれ、他の一半は、地主階級より製作品の代價として不生産階級に支拂はれた後、不生産階級より其食料とする農産物の代金として生産階級に支拂はれる。斯くて、前年度の純收穫としての農産物六百リーヴルを地主・不生産兩階級に賣却して得たる貨幣六百リーヴルを、生産階級の農業經營者たる小作人は、本年度の年投資として其一半を其雇傭する勞働者の賃銀として支拂ひ、他の一半を製作品の代金として不生産階級に支出する。

而して、この貨幣六百リーヴルは、年投資の回收として先取得せる前年度の農産物六百リーヴルの一半三百リー

ヴルを生産階級内の農業勞働者の食料として賣却し、又投資の利子の回收として先取得せる前年度の農産物三百リーヴルを、不生産階級の製作品の原料として賣却することによりて、生産階級の農業經營者たる小作人の手に回收される。次いで、この貨幣六百リーヴルが地主階級に本年度の小作料として納付せられ、再び同一の支出が次年度に於て各階級に反覆さるゝことゝなるのである。

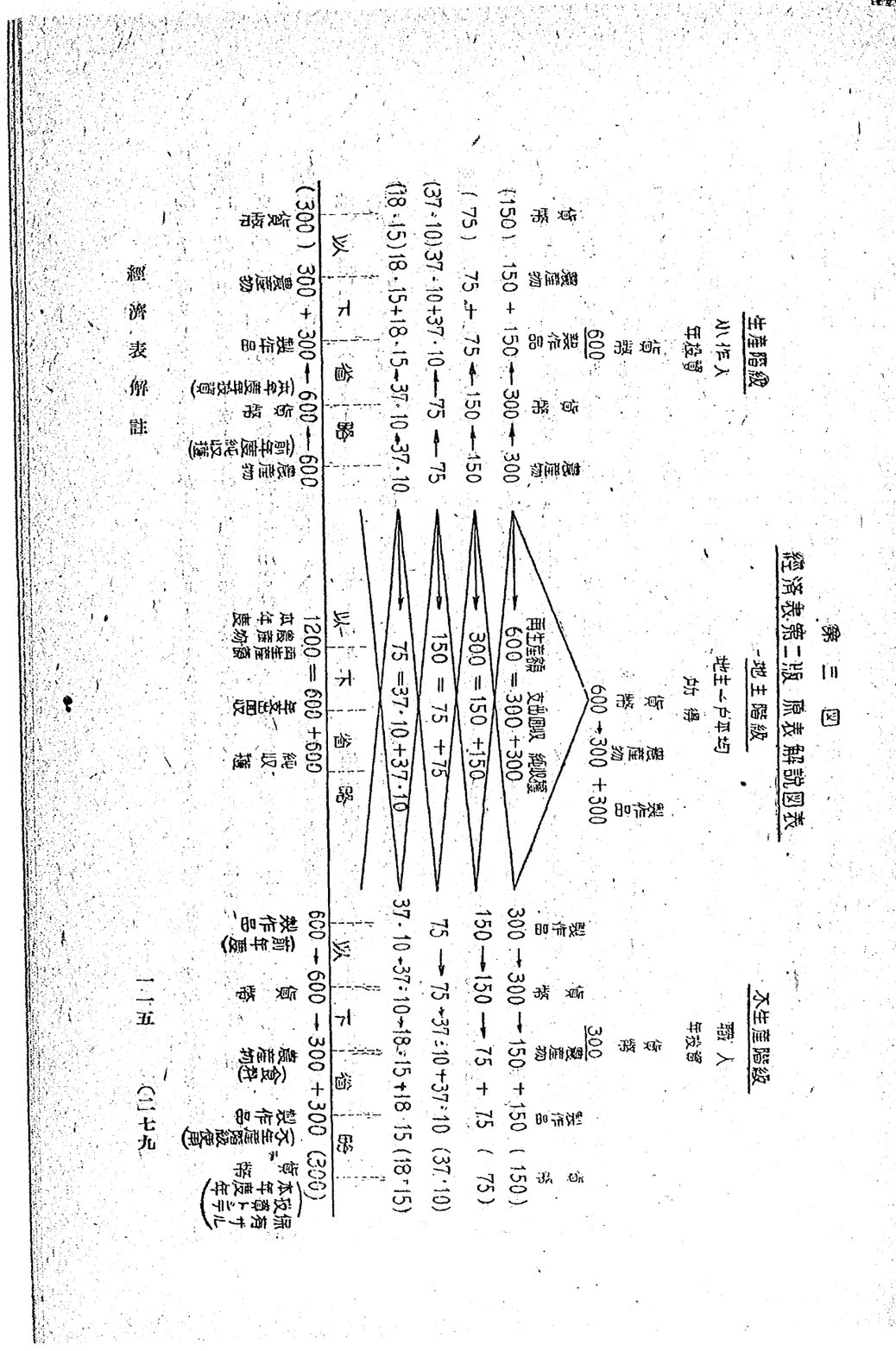
斯く、地主階級の所得と等額の貨幣、この場合に於ては六百リーヴルの貨幣が、循環して生産・不生産兩階級の年投資ともなり、又、地主階級の所得ともなるのである。故に本稿に在りては、最初に地主階級の所得六百リーヴルも、生産階級の年投資六百リーヴルも、更に又、不生産階級の年投資三百リーヴルも何れも貨幣であるとしたのである。即ち、こゝに於て、前記の二つの疑問―農業經營者たる小作人が其收穫せる農産物を何時・何人に賣却して地主に小作料を貨幣にて納付するかといふことゝ、地主階級の所得に等しき六百リーヴルの貨幣量にて、地主階級の所得のみならずして、生産・不生産兩階級の年投資をも貨幣であると做し得るや否やといふ二つの疑問―に答へ得たものと信ずる。

六

經濟表第二版の原表に表式せられたる社會各階級の支出よりして、農産物の年々の再生産額並に其消費と製作品の年々の製作額並に其使用とに就て考察することゝする。

(1) 農産物再生産額と其消費に就て

經濟表第二版の『經濟表の説明』に於ては農産物の年々の再生産額は先づ「支出の秩序を餘りに複雜ならざらしめむが爲に別に考察される所の租税と十分ノ一税と農夫の投資の利子とを除いて一千三百リーヴルである」と做し、



其農物一千二百リーヴルは「地主が先づ三百リーヴルだけを購入する。他の三百リーヴルは不生産階級に移り……最後に、其の中の三百リーヴルだけが生産階級に於て之を生ぜしめた人々によって消費され、而して更に他の三百リーヴルだけが家畜の食料及び保存に使用される」（"Tableau OEconomique by F. Quesnay" p. iii：『岩波文庫『經濟表』二一頁）ものと論述する。即ち、ケネエは年々再生産せらるゝ農産物一千二百リーヴルは

地主階級にて購入消費するもの　三百リーヴル　不生産階級にて購入消費するもの　三百リーヴル
生産階級にて人間が消費するとの　三百リーヴル　家畜の消費するもの　三百リーヴル

であると做す。

然るに、經濟表第二版の第一表、彫刻版刷の原表の下の附記に據れば、農夫の原投資に對する利子三百リーヴルを考慮すれば、この回收を含めて農産物の再生産額は一千五百リーヴルとなるものである。（岩波文庫『經濟表』一七頁）而して、又、先に注意せる如く、不生産階級は、更に、其年投資を生産階級に支出して製作品の原料とする農産物三百リーヴルを購入するに非ざれば、次年度に於て、他の二階級に賣却する製作品六百リーヴルを製作し得ざるものである。故に農夫の原投資の利子を考慮せる時の農産物一千五百リーヴルは、

地主階級にて購入消費するもの　三百リーヴル
不生産階級にて食料として消費するもの　三百リーヴル　原料として使用するもの　三百リーヴル
生産階級にて人間の消費するもの　三百リーヴル　家畜の消費するもの　三百リーヴル

である。而して本稿の前記の解説に據れば生産階級に於ける人間の消費三百リーヴルは、單に其使用さるゝ農業勞働者の食料としての消費のみを計上せるもので、農業經營者たる小作人の消費額は含まれてゐないものと考へられる。

斯くの如く、經濟表第二版に於ては、投資の利子を計算するに、原投資を年投資六百リーヴルの五倍の三千リーヴルとして、投資の利子を其の一割の三百リーヴルとせるものと考へらるゝが、ミラボオ侯の『經濟表と其解説』に在りては、年投資六百リーヴルは大規模耕作に使用する馬の鋤一挺の年投資二千百リーヴルの七分ノ二即ち二千八百五十七リーヴル餘、概算して、二千八百五つて、其原投資は鋤一挺の原投資一萬リーヴルの七分ノ二となるを以十リーヴルとなるべきものとし、投資の利子は、この原投資の一割の利子二百八十五リーヴルに、年投資六百リーヴルの一割の利子六十リーヴルを加へて三百四十五リーヴルとなるものと計算する。從つて、この投資の利子を考慮すれば、農産物年々の再生産額は一千五百四十五リーヴルとなるものと記述する。（L' Ami des Hommes t. VII p. 19）p. 23：t VII p. 19）

次に、租税・十分ノ一税を考慮する時、生産階級の農業經營者たる小作人の純收益は、地主階級に小作料六百リーヴルの外に租税三百リーヴルと十分ノ一税百五十リーヴルを支拂ひ得る一千五十リーヴルとならねばならぬ。從つて、この純收益を生ずべき年投資は一千五十リーヴルとなるべく、又、生産要素としての年投資は農業勞働者の消費する農産物三百リーヴル、耕馬の飼料三百リーヴルの外に、小作人自身が生活のために消費する農産物四百五十リーヴルを加へた一千五十リーヴルの農産物であると考察されてる。而して、この年投資一千五十リーヴルにより齎らさるゝ地主階級の所得一千五十リーヴルを各階級の支出の基本とする經濟表原表は、ミラボオ侯の『經濟表と其解説』に、第二表として掲載さるゝものである。（L' Ami des Hommes t. VI, p. 51：t VII, p. 42）この地主階級の所得一千五十リーヴルが生産・不生産兩階級に等しく支出せられ、又、この二階級も其商品の賣却代金を等

分に相互に支出するものとすれば、生産階級の投資の利子を計算に入れずして、年々再生産せらるゝ農産物は二千百リーヴルとなり、不生産階級が他の二階級に賣却する製作品は一千五十リーヴルとなり、其年投資は五百二十五リーヴルとなるものである。

更に、投資の利子を計算するにケネエが經濟表第二版の原表の下に附記せる如く、原投資を年投資の五倍とし、投資の利子を其原投資の一割とすれば、原投資は年投資一千五十リーヴルの五倍の五千二百五十リーヴルとなり、投資の利子はその一割の五百二十五リーヴルとなる。從つて、投資の利子を考慮すれば農産物再生産額は二千六百二十五リーヴルとなるものである。然しながら、これは、元來、馬の鋤一挺の使用の半分、即ち大規模耕作地六十アルバンの狀態を基礎とするものであるとせば（"Tableau OEconomique by F. Quesnay" p. vi：岩波文庫『經濟表』二四頁："L'Ami des" Hommes t. VII p. 42 原表下段の附記參照）其投資は原投資五千リーヴル、年投資一千五十リーヴルであり、從つて、其投資の利子は、原投資の利子五百リーヴル、年投資の利子百五リーヴル、計六百五リーヴルである。故にこの投資の利子を考慮する時、農産物再生産額は、次表の如く二千七百五リーヴルとなるものである。但し、全國の原投資額は四十三億三千三百三十四萬リーヴルと計算さるゝが（『三田學會雜誌』第三十八卷第二號六四頁）故に、其百萬分ノ一は四千三百三十四リーヴルであり、斯くすれば下段の如く農産物再生産額は二千五百三十八リーヴルとなるがミラボオ侯の『經濟表と其解說』の第二表の附記の計算に據りて消費は考察することゝする。

投資と收益

	原投資	全國として
	五千	四十三億三千三百三十四萬

年投資	一千五十	一千五十	十億五千萬
年投資利子	六百五	四百三十八	四億三千八百三十三萬四千
年支出 原投資利子	五百	三百三十三	三億三千三百三十三萬四千
年投資利子	百五	百五	一億五百萬
年支出	一千六百五十五	一千四百八十八	十四億八千八百三十三萬四千
總收益	二千七百五	二千五百三十八	二十五億三千八百三十三萬四千
年支出回收	一千六百五十五	一千四百八十八	十四億八千八百三十三萬四千
純收益	一千五十	一千五十	十億五千萬
地主純所得	六百	六百	六億
地租	三百	三百	三億
階級 十分ノ一稅	百五十	百五十	一億五千萬

次に、この年々再生産せらるゝ農産物二千七百五リーヴルの消費を考察するに、生産階級の購入する製作品を投資の利子に等しく六百五リーヴルとすれば地主階級に購入さるゝ製作品五百二十五リーヴルと合して不生産階級の一職人が他の階級に賣却する爲に、製作する製作品は一千百三十リーヴルとなり、その半額が原料として購入する農産物であるとすれば不生産階級の年投資は生産階級の投資の利子を考慮せずしては五百二十五リーヴルとなるが之を計算に入るゝ時は五百六十五リーヴルとなる。斯くて各階級に於ける農産物並に製作品の使用・消費は次の如く表示され得る。

階級	消費狀態	農産物消費額	製作品使用額	消費總額
地主階級		五百二十五	五百二十五	一千五十
他階級 地主		三百	三百	六百
他階級 地主	十分ノ一稅徵收者	七十五	七十五	百五十

生産階級	農業經營者	一千五十	六百五
生産階級	農業經營者 食料	七百五十	六百五
生産階級	農業經營者 耕馬飼料	四百五十	四百五十
生産階級	農業經營者 投資修復	三百	三百
生産階級	農業勞働者	三百	六百五
不生産階級	食料	一千百三十	三百
不生産階級	原料	五百六十五	一千百三十
不生産階級	消費合計	二千七百五	五百六十五
		一千百三十	五百六十五
			三千八百三十五

要之、經濟表第二版の經濟表原表に在りては、生産階級の投資の利子も、地主階級の租稅及び十分ノ一稅として の所得をも考慮せざるを以つて農産物の年々の再生産額を一千二百リーヴルとし、從つて、それは地主階級にて三百リーヴル、不生産階級にて三百リーヴル、生産階級にて農業勞働者の食料として三百リーヴル、家畜即ち耕馬の飼料として三百リーヴル、消費せらるゝものと論述するのである。然しながら、租稅・十分ノ一稅をも考慮に入れ、農夫の投資の利子をも計算すれば、農産物の再生産額は二千七百五リーヴルとなり、それは地主階級に於て五百二十五リーヴル、不生産階級に於て食料として五百六十五リーヴル、製作品の原料として五百六十五リーヴル、合計一千百三十リーヴル購入消費せられ、生産階級に年投資の回收として先取得せられた一千五十リーヴルは小作人自身の生活のために四百五十リーヴル、勞働者の食料のために三百リーヴル、動物即ち耕馬の飼糧として三百リーヴルを消費せらるゝものと考察され得る。

(2) 製作品の年々の製作額と其使用に就て

ケネエは經濟表第二版の『經濟表の說明』に於て、不生産階級の職人は、地主及び小作人に、製作品を賣却せる其代金一半は生産階級に支出するも、「他の一半は保存の爲め並に投資の返濟の爲めに不生産階級そのものへ分割する」（"Tableau O'Economique by F. Quesaay" p. iii：岩波文庫『經濟表』二〇頁）と記述する。即ち不生産階級のものも、其製作品賣却代金を生産・不生産兩階級に等分に支出するものとするのである。而して、職人は如何なる理由によりて自己の屬する不生産階級内に、それを支出するかと言ふに、本稿の解說に於ては、他の職人の製作品を購入するために、同じ不生産階級に支出するものと做した。而も、その貨幣は職人相互の賣買によりて、再びこの職人の手に復歸して、製作品の原料として使用すべき農産物を購入する本年度の年投資として保有さるゝものと觀察した。然しながら、この年投資によりて購入さるゝ農産物三百リーヴルを製作品の原料として使用し、其製作・販賣の期間に食料として農産物三百リーヴルを消費するものとするを以つて、製作せらるゝ製作品は六百リーヴルであり、而も、それは翌年地主階級に三百リーヴル、生産階級に三百リーヴル賣却せらるゝものに外ならぬ。故に、職人は同じ不生産階級の他の職人に賣却する製作品を所有し居らず、又他の職人より購入する製作品も不生産階級に存在せざることゝなる。經濟表の範式を解說せるマルクス Karl Marx も、この點に先づ、疑問を持つた。即ち、マルクスは不生産者（職人）は、この全製作品を地主及び生産者（小作人）に賣るが故に、「製作品のほんの少しでも彼等自身の消費のためには殘らない」。（『剩餘價値學說史』第一卷第一章第十四節、改造社版マルクス＝エンゲルス全集第八卷一一四頁）然しながら、「不生産階級も其産業の製作品を、自家用に使用する。然るに、若し、彼等の製作品が流通によつて全部他の二階級に移轉されるならば一體この自家用の製作品はどこに

現はれるか。」といふ非難が起り得るものであると論ずる。（『反デューリング論』第二篇第一章、改造社版マルクス＝エンゲルス全集第十二卷四二〇頁）而して、マルクスはボオドオが、この問題を不生産者（職人）がその製作品を價値以上で賣るといふ事によりて說明する（マルクス＝エンゲルス全集第八卷一一四頁）ものであるとして、「不生産階級はたゞ自分等の作つた商品の一部を、自ら消費するばかりでなく、出來るだけ多くそのうちから自分たちの手許に殘さうとする。だから、彼等は流通に投ぜられる彼等の商品を、實際の價値以上に賣るのであり、また、賣らざるを得ないのである。けだし、我々はこれ等の商品をその製作品全部の價値で評價するものだからである。

けれども、これによつて經濟表の定めた關係の上には何等の變りもないといふのは、他の二階級は、やはりこの製作品をその製作品全部の價値のみで受取るからであると答へられる」（マルクス＝エンゲルス全集第十二卷四二〇頁）と記述してゐる。

故に、先づカウツキイ Karl Kautsky がマルクスが經濟表の解說するに當りて參照せるものと註するボオドオの『經濟表の解說』"Explication du Tableau Economique à Madame de * * *, par L'Auteur des Ephémérides" を檢討することゝする。

ボオドオは、この『經濟表の解說』第三章第十二節に於て、交換に貨幣の介在せざるものとし、農産物は年投資二（二十億フラン）と原投資十（百億フラン）の維持のための一（十億フラン）との年支出三（三十億フラン）によりて年々五（五十億フラン）再生産せらるゝものとし、其内の三（三十億フラン）生産階級に、年支出の回收として先づ取得されるものとする。而して、この農産物三の内の二は生産階級の本年度の年投資として、この階級に屬するもの、食料として消費せられ、殘りの一は原投資の修復維持のため不生産階級の製作品一と（物々）交換さるゝものとす。而して、この農産物一は不生産階級にて食料及び製作品の原料として使用せらるゝものとする。更に、年々純收穫として再生産せらるゝ農産物二は、地代として地主階級に納付せられ、その内の一の農産物は地主階級の食料として消費せられ、他の農産物一は不生産階級の製作品一と（物々）交換せられ、而してこの農産物一も不生産階級にて食料及び製作品の原料として使用消費せらるゝものとする。斯くて、不生産階級は地主及び生産の兩階級より農産物二を製作品二との（物々）交換によりて得るが、其農産物の一を食料として消費し、殘りの一を製作品の原料として使用するものとする。而して、不生産階級はこの製作品の原料として農産物一を三等分して、其三分ノ一を以つて作る製作品を、（翌作度に於て）地主階級の農産物一と（物々）交換し、又其三分ノ一を以つて作る製作品を自己の階級内にて使用するものとする。

斯くの如く不生産階級は農産物の三分ノ一を加工して農産物一と交換するが故に、原料の價値を三倍したことゝなりて、農産物の三分ノ二を利得せる如く考へられる。斯くて、地主・生産兩階級との交換によりて不生産階級は三分ノ四の農産物を利得せることゝなるが、それは、不生産階級が、これ等の製作品を製作し、交換する期間中に於て、食料として消費せる農産物一と、自ら使用せる製作品の原料としての農産物三分ノ一との合計が回收せられるに止まるものであると。（"Physiocrates" par Daire t. II. p. 852-854）

マルクスは斯くの如き解釋は、賣買にもとづく利益を認むることゝなれば「重農主義者は斯の如くして、必然的に重商主義」に歸着すると批判してゐるが（改造社版マルクス＝エンゲルス全集第八卷一一四頁）ボオドオの斯くの如き說明は、飽く迄、工業を不生産的と看做す重農主義的考察であつて、ケネエが一七六六年の『農商財政雜誌』

十一月號に掲載せる『工匠の勞働に就て』"Second dialogue entre M. H. et M. N. Sur les véritables propriétés du Commerce et de l'industrie" 尙論集『フィジオクラティ』第二卷には "Sur les travaux des artisans, second Dialgoue" と題して採錄せられる）の中に詳論する處であり、又メルシエ・ヅ・ラ・リヴイエール Le Mercier de la Rivière が一七六七年の『政治社會の自然的・本質的秩序』"L'ordre naturel et essentiel des soietés politiques" に、ル・トロオン Le Trosne が一七七七年の『社會の利益に就て』"De l'Intéret social par Rapport á la Valeur, á la Circulation, & l'Industrie et au Commerce intérieur et exterieur" に縷說するところである。

今、斯の如きボオドオの解釋を經濟表第二版の原表に適用すれば、不生產階級の一職人が其年投資三百リーヴルを支出して生產階級より購入する三百リーヴルの製作品の原料は三等分せられ、この百リーヴルの農產物を原料として製作せられたる製作品は地主階級に三百リーヴルにて賣却せられ、又、百リーヴルの農產物を加工せる製作品は生產階級に三百リーヴルにて賣却せらるゝことゝなる。而して尙不生產階級の使用のために百リーヴルの農產物を原料とする他の階級に三百リーヴルにて賣却せられたと等しい價値の製作品が存在し得ることゝなる。

斯くて二百リーヴルの農產物を加工せる製作品を地主・生產兩階級に六百リーヴルに賣却せる不生產階級の一職人は、一見四百リーヴルの利益を取得せる樣に思はるゝも、此等の製作品を加工し、販賣する期間に彼は百リーヴルの農產物を原料とせる製作品と、食料としての農產物三百リーヴルを使用・消費するが故に、この賣却による利益四百リーヴルは、既に消費せる四百リーヴルの費用の回收に過ぎないもので、何等の純收益を殘すものではないのである。

故に、經濟表第二版の原表に在りては不生產階級の製作品は

地主階級に賣却さるゝもの　三百リーヴル　生產階級に賣却さるゝもの　三百リーヴル

不生產階級內にて使用さるゝもの　三百リーヴル

合計九百リーヴルとなるものであるが、この不生產階級內にて使用せらるゝ製作品三百リーヴルの費用二百リーヴル（原料として農產物百リーヴルと其製作期間中の食料としての農產物百リーヴル）は、他の二階級に、二百リーヴルの原料を使用し、其製作期間中に食料二百リーヴルを消費し、合計四百リーヴルの費用を以つて製作せる製作品を六百リーヴルに賣却することによりて回收せらるべきもので、結局、不生產階級にて年々製作せらるゝ製作品の總價値は六百リーヴルであると言ひ得らるゝのである。

七

經濟表第二版の經濟表原表と同一の機構にて、同じく地主の純所得六百リーヴルを諸支出の基本となす第二版の第二表、第三版の一表、ミラボオ侯『經濟表と其解說』第一表と、それに、租稅並に十分ノ一稅を加へた一千五十リーヴルを諸支出の基本とする其第二表に就ては前記の解說により其表式する佛蘭西農業の再建後の流通・分配・消費・再生產の基本的秩序を明かにし得たのであるが、等しく原表の機構を以つて、同樣に、佛蘭西の農業再建後の經濟的基本秩序を表示するも、其數字を異にする、經濟表初表の原稿と推定せらるゝケネエ手記の表及び「農業哲學」並に「農業哲學綱要」に挿入せらるゝ經濟表原表に就て簡單に、其前提とする農業の投資並に收益、及び其表示する支出秩序に於ける消費狀態を考察することゝする。

（一）　ケネエの手記する經濟表原表に就て

一七五八年の十二月ヴェルサイユ宮殿內の印刷所にて印刷せられたる經濟表初版本の原稿と推定せらるゝケネエ

の手記する經濟表原表は、地主一戸平均の純所得四百リーヴルを諸支出の基本とするものであるが、これは、『大百科全書』の第七卷『穀物』の項を參照すれば、佛蘭西の良地三千萬アルパンに、大規模耕作が實施せられ、其他の牧場・葡萄園・森林等が主として地主の投資によりて夫々發達せる如き其農業の再建狀態に於ける地主の純所得額四億リーヴルを百萬分せるものと考へ得らる。（『三田學會雜誌』第三十八卷第二號五七頁參照）

而して、この經濟表原表の前提となる農業の投資並に收益、及び其表式せらるゝ支出に據る農產物並に製作品の使用消費は次の如くなる。

投資と收益			
原投資		三千七百五十	全國として三十七億五千萬
年投資		七百	七億
年投資利子		三百二十	三億二千萬
年支出	原投資利子	二百五十	二億五千萬
	年投資利子	七十	七千萬
年支出		一千二十	十億二千萬
總收益		一千七百二十	十七億二千萬
總收益	年支出回收	一千二十	十億二千萬
	純收益	七百	七億
地主所得	地主純所得	四百	四億
	租稅	二百	二億
階級得	十分ノ一稅	百	一億

消費狀態		農產物消費額	製作品使用額	消費總額
地主階級		三百五十	三百五十	七百
地主階級	地主	二百	二百	四百
	國家	百	百	二百
	十分ノ一稅徵收者	五十	五十	百
生產階級		七百	三百二十	一千二十
生產階級	農業經營者	五百	三百二十	八百二十
	農業經營者	三百五十	三百五十	三百五十
	食料	百五十	百五十	百五十
	耕馬飼料		三百二十	三百二十
	投資修復	二百	二百	二百
	農業勞働者	六百七十	六百七十	六百七十
不生產階級		三百三十五	三百三十五	三百三十五
不生產階級	食料	三百三十五	三百三十五	三百三十五
不生產階級 原料		三百三十五	三百三十五	三百三十五
消費合計		一千七百二十	六百七十	二千三百九十

（一一）『農業哲學』並に『農業哲學綱要』に挿入せらるゝ經濟表原表に就て

この兩著書に挿入せらるゝ經濟表原表は地主の純所得に、租稅・十分ノ一稅を含む一戸平均の所得二千リーヴル

を諸支出の基本とするものであるが、これは、其七章の計算に據れば佛蘭西の農業が最高限度に迄發達し、其土地六千萬アルパンに大規模耕作が擴張せられ、其純收益十億七千萬リーヴルに、葡萄園・森林・秣場・鑛業・漁業・其他の純收益約九億二千九百萬リーヴルを加へた總額二十億リーヴルによりて齎らさるゝ地主階級の總所得額二十億リーヴルを地主階級百萬戸なれば百萬分せるものに外ならぬ。（『三田學會雜誌第三十八卷第二號七六頁參照）

而して、この經濟表範式の前提となる農業の投資並に收益、及び其表式せらるゝ支出にて消費せらるゝ農産物並に使用せらるゝ製作品は次の如くなるものである。

投資と收益

			金國として
原投資		一萬	百億
年投資		二千	二十億
年支出投資	經營者食料	一千	十億
	勞働者食料	一	十億
	利子	千	十億
年支出		三千	三十億
總收益		五千	五十億
年支出回收		三千	三十億
純收益		二千	二十億
地主所得	地主純所得	一千百四十二	十一億四千二百萬
階級得	租稅	五百七十二	五億七千二百萬
	十分ノ一稅	二百八十六	二億八千六百萬

消費狀態		農産物消費額	製作品使用額	消費總額
地主階級		一千	一千	二千
地主	地主	五百七十一	五百七十一	一千百四十二
國家		二百八十六	二百八十六	五百七十二
十分ノ一稅徵收者		百四十三	百四十三	二百八十六
生産階級		二千	一千	三千
農業經營者		一千	一千	二千
生産階級	食料		一千	一千
	投資修復	一千		一千
農業勞働者		二千		二千
不生産階級		一千		一千
不生産階級	食料	一千		一千
	原料	一千		一千
消費合計		五千	二千	七千

斯くて、佛蘭西の農業再建後の諸支出の秩序を表示する基本的經濟表原表九表（内一表は經濟表初版本に挿入せらるゝものとして未發見であるが）に就ては、其數字並に點線にて示めさるゝ機構の意義を明かになした。次の機會に於て、この經濟表原表の簡易化されたる『農業哲學』記載の「省略せられたる原表」及び「略表」から『農業哲學綱要』の「略式」及び『經濟表の分析』の「範式」への機構の變化並に、其各機構の解説を行ふことゝする。